



ー開館20周年記念号ー

横倉神社の大絵馬と復元模型



越知町横倉の横倉神社に、天保9（1838）年に奉納された大絵馬〔昭和62年町指定文化財〕がある。絵具の剥落が激しいが、縦151センチ、横170センチの檜の板4枚を合わせたものに、横倉神社・横倉寺を視点の中心に、仁淀川、今成河原、越知村集落（現越知市街地）、そして、筏流しや川漁、川岸で釣りをする人々等々が描かれている。当時の地理・地形、人々の暮らし・風俗等を読み取ることができ、専門家による鑑定では大変貴重な絵馬ということである。また、所々に「洛中洛外図」などに手法としてよく用いられる、雲を現すような図柄が描かれていて、そのことも珍しい特殊な技法の一つのようである。右上隅に「天保九戌春吉辰 奉寄進當山図」（「吉辰」とは吉日のこと）と落款（2個）、左下隅に「佐川町若」とあり、現在でいう青年団のような若者が寄進したものと思われ、朱印の落款があることから、それなりの画家が描いたことがわかる。

絵馬の中でも、やはり横倉神社が誇張的かつ繊細に描かれており、秋の神祭（祭礼）の時の様子であろうか、幟が立ち、帯刀した武士を含む多くの参拝客が行きかい、境内では奉納相撲が行われ、傍らでは餅を売る姿が見られるなど、賑やかな様子が伺える。元々横倉神社は、800年以上前の横倉修験道の三社ある内の「下ノ宮」（絵馬中の鳥居扁額には「横倉宮」とある）として創建され、横倉三所熊野権現と呼ばれていた。創建当初は女人禁制で、神拝所（遥拝所）が設けられ、その奥の両側に、北社（大和国金峯山藏王権現勧請：金峯神社）と南社（紀伊国熊野神社勧請：横倉大権現）があり、本絵馬中にもそれらが描かれている。

また、正面鳥居のすぐ左側には鐘楼もあり、元々長宗我部元親が伊予宇和島を攻めた時に来応禅寺から戦利品として持ち帰り横倉神社に奉納したという釣鐘がひび割れたために文化15（1818）年に新しく铸造した現在ある鐘が掛かっている。

神社境内の南に接して（現在のドライブイン片岡の駐車場辺り）、横倉寺（別府山延命院横倉寺）もあり、神仏混淆（習合）の時代を思わせる。横倉寺のさらに南の現在の文徳集落付近には、旧仁淀村に通じ、幕末に土佐藩の参政・吉田東洋を暗殺した那須慎吾ら主犯客3名が通った森往還も見える。

現在の横倉神社境内は、国道33号の敷設の土地買収により狭くなってしまったが、この頃は児童500人ほど収容できる広さであったという。従って、当時の参詣道正面鳥居は現在の国道よりもさらに下側にあったと思われる。

一方、幕末に、後の初代宮内大臣・田中光顕が脱藩する際や岩崎弥太郎が長崎へ行く際に通り、またジョン・万次郎がアメリカから帰国して高知城下へ向かう際に通った松山街道を、荷物を担ぐ人、馬を引く人、武士などさまざまな人々が行き来する姿や「三尾の渡」なども見られる。

現在の越知橋が架かっている所は、水車が2基描かれている辺りで、そこから北に伸びる石垣に沿ってその上段を国道33号が走っていると思われる。

越知町は、主に明治時代に養蚕・蚕糸業で栄えた町であるが、それ以前の少なくとも江戸時代後期も、土佐国唯一の霊場として大変賑わっていたことがわかる。

横倉山自然の森博物館20周年にあたって



越知町長 小田 保行

おかげさまで、今年の10月11日で、多くの皆様方に愛される博物館として、当館が20周年を迎えることができました。心より厚く御礼申し上げます。

越知町のシンボルである横倉山は、日本最古の化石をはじめ、4億年以上も前のサンゴの化石などが産出することで知られています。また、安徳天皇一行が、源平の屋島檀ノ浦の戦いからひそかに潜幸され、長い逃避行の末に、安住の地とされた伝承の山で、「安徳天皇陵墓参考地」（宮内庁所轄）が山中にあります。さらに、日本の植物学の基礎を築きあげた世界的な植物学者・牧野富太郎博士の研究の山として知られ、博士がこの山で発見し、新種として命名した植物が自生しています。

このように、横倉山は自然の宝庫であり、歴史的にも貴重な財産を有しております。横倉山自然の森博物館建設事業は、「横倉山の貴重な自然資源・歴史的資源を後世に遺していこう。」そして、「地球の生き立ちも伝えることができるようにしよう。」と地域の有志の方々の熱い思いから始まりました。

博物館の役割は、貴重な資料を大切に保管・展示すること、研究拠点となること、そして学習の場であること等様々な重要な役割を担っています。

その博物館機能に、単なる“箱モノ”ではなく、“建築物としての魅力”を併せ持つことも重要と考え、世界的な建築家・安藤忠雄氏に設計をお願いしました。その甲斐あって、建築の中に光、水、風、緑（木々）など自然の要素を取り入れ、横倉山に溶け込むような博物館となりました。そして、平成9年に県内唯一の自然史系博物館として、国・県の支援をいただき、越知町が誇るべき町立の博物館として、オープンいたしました。

この度20年の節目を迎えましたことは、この上ない喜びではありますが、これを新たなスタートと考え、多くの皆様にさらに親しんでいただける博物館となるように努力してまいりますので、今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。



館長（教育長） 山中 弘孝

この度、横倉山自然の森博物館は、開館以来20年の佳節を迎えました。町民の皆様をはじめ、博物館の運営にご協力いただきました全ての皆様に心から感謝申し上げます。

当館は、日本最古の化石産地である横倉山を通して、地球の生き立ちや植物学者・牧野富太郎博士が発見・命名した多くの植物や安徳天皇の伝説など、越知の自然や歴史を学ぶことのできる博物館です。設計は、世界的に有名な建築家の安藤忠雄氏によるもので、建築物自体も評価をされています。コンセプトは、「地球学博物館」として建築され、平成9年10月11日に開館いたしました。

横倉山の地質は、4億2～3千万年前の日本屈指の古いもので、石灰岩は「土佐桜」と呼ばれる建築用石材として全国的に有名でした。

植物では、植物学者・牧野富太郎博士の研究の山で、ヨコグラノキやヨコグラツクバネなど、横倉山の地名にちなんだ植物を含む29種が博士によって発見・命名されています。また、杉原神社付近の大杉群、アカガシの巨木からなる原生林、最近では、珍しい光るキノコ（シイノトモシビダケ、ギンガタケ）も見つかり有名になりました。

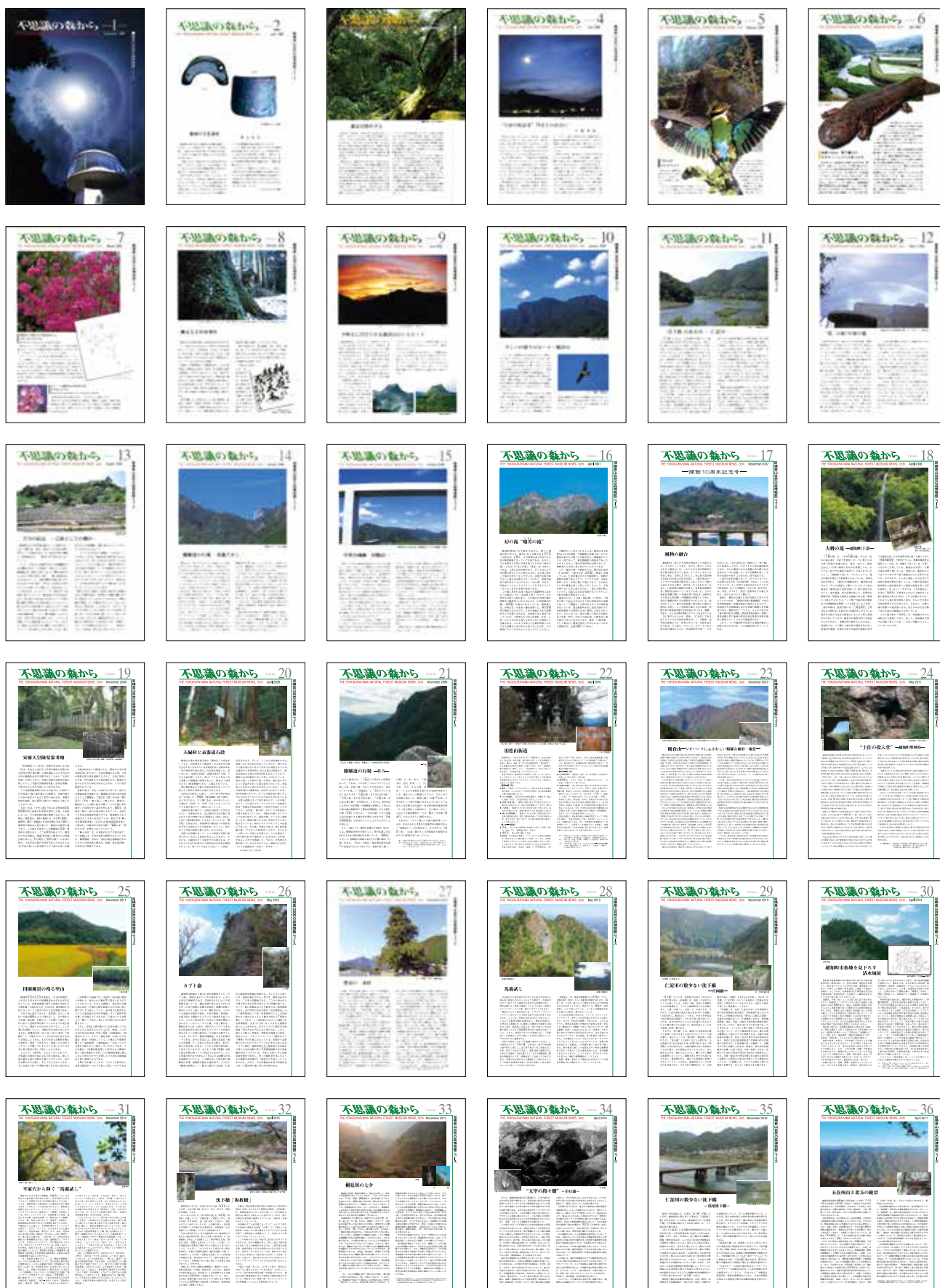
歴史では、金峯山修験道の霊場として、また四国三修験道のうち土佐の国唯一の霊場として栄え、現在もその名残が残っています。

伝説として、安徳天皇の潜幸伝説が残り、宮内庁所轄の陵墓参考地があり、平家落人伝説やその史跡が残っています。

このように、横倉山と横倉山自然の森博物館は、地質や植物、そして歴史を学ぶ重要な価値ある越知町の資源です。一時期は、博物館の存続も論議されましたが、越知町の誇りである博物館を残そうという町民の皆さんの熱い思いに支えられ、本年で20年になりました。越知町の子供たちにとっては、ふるさとの原風景のなかに博物館があり、郷土の誇りとなり、希望の象徴でもあります。

これからも、当館が町民の皆さんの学習や文化とのふれあいの場として、また、心のよりどころとなるよう職員一同、なおいっそうの努力をして参りますので、町民の皆さんのご理解とご協力をお願いしまして挨拶といたします。

『博物館ニュース』(不思議の森から) 20年の歩み





義天玄詔の肖像（京都龍安寺所蔵）

龍安寺初代住職の修行した天忠寺跡

安井 敏夫

石庭で有名な京都の龍安寺〔世界文化遺産〕の初代住職・義天玄詔が、若い頃（15～18歳）修行し得度した「天忠寺」が高知県越知町柴尾にあったことはあまり知られていない。その

場所についても、これまであまりはっきりしていなかったが、最近土佐史談会の朝倉慶景氏によって具体的な場所が明らかにされた。

従来「天忠寺跡」と言われてきた場所は、『柴尾字図』〔明治時代？〕の小字「天忠寺」内の柴尾集落中央部最北端の山中竹藪内にあり、車道から山道への入り口には「天忠寺跡」（越知史談会建立；寄附者京都龍安寺）と書かれた花崗岩製の石碑が建てられている。ただ、本指定地は平坦面があるものの、幅5～6m、奥行き約11mと狭く、とても寺が立地するような広さではなく問題視されてきた。そこに、2016年10月25日に開催さ

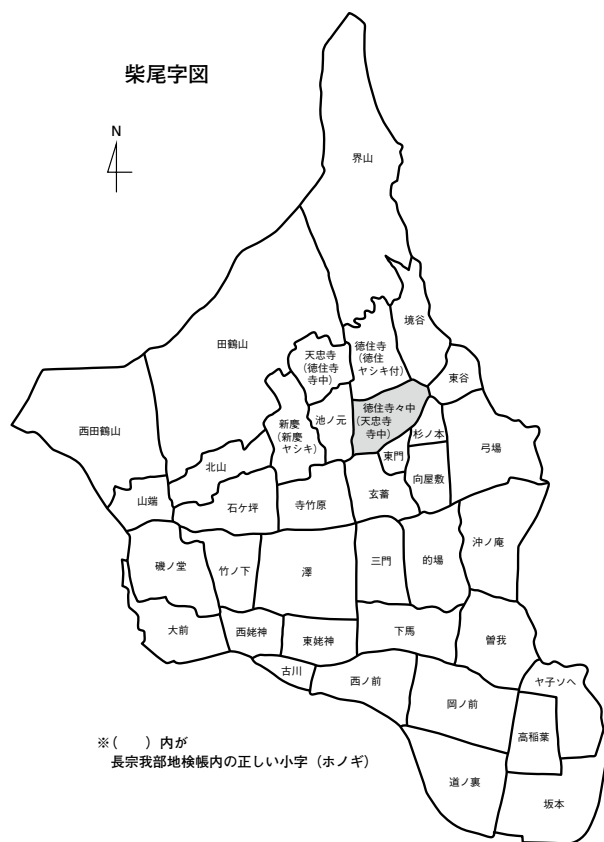
れた、『高岡地区文化財保護連絡協議会・文化協会 合同研修』（越知町担当）の講演：「義天玄詔について」と題した講話の中で、義天玄詔のおいたち・人柄について取り上げられ、『長宗我部地検帳』に載っている古いホノギ（小字）から、「天忠寺」のあった場所（『柴尾字図』の小字「徳住寺寺中」が「天忠寺寺中」の誤り）が特定された。現在「天忠寺跡」の石碑が建っている地域は、小字「天忠寺」（正しくは「徳住寺寺中」）で、『柴尾字図』は本来の「天忠寺寺中」を「徳住寺寺中」と書き間違えたものと思われる。ちなみに、小字「徳住寺」（正しくは「徳住ヤシキ付」）は天忠寺の住職が隠居した時に入る寺（寺域）であり、義天玄詔の師・義山明恩も入ったであろう。

今回明らかとなった真の「天忠寺跡」は、「柴尾の一本杉」〔町指定文化財〕真北の用水池と道を隔てた東側の隣地（約25×38m）である。小字「田鶴山」南東山麓にあって、眼下に柳瀬川と水田を見下ろし、

近くには池（小字「地ノ元」；現在の池の姿とは異なる）、そのすぐ上流（小字「天忠寺」）には飲料水・日常の仏事に必要な湧水もある（当然寺域内にも井戸があったかもしれない）。『長宗我部地検帳』〔天正18（1590）年〕には、天忠寺に関して次のようにある。「天忠寺々内 一ノ壺反式拾五代 寺中 芝尾村天忠

寺領 片岡分」（一代は6坪で、計約450坪）。名利・天忠寺には義山明恩という名僧がいて、義天玄詔（当時・明詔）はその和尚を頼って天忠寺に修行に來たのであろう。字図からは、小字「下馬」でどんな高貴な人でもここで馬を降り、門番のいる「三門」を通り、小字「東門」内の寺の正門をくぐって寺内へ入ったことが伺える。こうして見ると、このような壮大な天忠寺を構えた「柴尾」は当時高岡郡の“学問・文化の中心地”であったといえることができる。

以下に、天忠寺と義天玄詔のおいたちについて、講演の内容を中心に要約する。
● 禅師・義天玄詔の出自（生まれ）については、古



い書物に「土州の人なり。俗姓は蘇氏」とあることから、他の資料から判断して、高岡郡波川村（現、いの町波川）出身の蘇（蘇我の略）氏と考えられる。

● 応永14（1407）年15歳の時、高岡郡芝尾村（現、越知町柴尾）天忠寺の偉大な僧侶・義山明恩和尚に帰依（すぐれた僧侶に服従し、すぐること）し、剃髪して童行（少年僧）となる。諱（貴人の実名を敬していう）は、初め明詔、のち玄承、晩年玄詔と称したが、字「義天」の義と初めの諱「明詔」の明は、共に師の義山明恩から頂戴したとみられ、天忠寺で学んだことが、禅師・義天玄詔の人間形成に大きく影響したと推測される。

● 天忠寺で3年間修行し得度（剃髪・染衣して仏門に入ること）した後（18歳）、師の勧めによったとみられ、「京都五山」の一つで臨済宗建仁寺派の本山・建仁寺に登る。

○ 〈長宗我部地検帳にみる天忠寺〉 長宗我部時代に



天忠寺跡（畑の部分）の西方からの眺め。手前右が池

おける検地時の天忠寺周辺には横倉寺・乗台寺・円福寺など計7寺院があったが、天忠寺の

寺領は約28町1反（1反は約1石）で他の寺院に比べ桁外れに多く、2位の横倉寺の倍以上である。このことは長宗我部氏の手厚い庇護を受けるほど天忠寺は臨済宗の名刹であったことがわかる。

○〈江戸期の天忠寺〉土佐の代表的な江戸時代の歴史書『南路志』（1805-1813）に、天忠寺（柴尾村黒岩之内）「退轉（転）、本尊のミ残る」とあり、庇護する者を失った天忠寺は退轉し、本尊の釈迦立像〔壺尺式寸〕だけが残っていたことがわかる。

●応永29（1422）年、禪師30歳の時、建仁寺を出、福聚寺（京都府舞鶴市？）を経て、尾張国（現愛知県）犬山の瑞泉寺に行き、応永35（1428）年36歳の時、日峰宗舜住職から印可^{※1}を受ける。

●父が亡くなり土佐へ帰国、再び上京。のち再度瑞泉寺に移る。

●日峰宗舜入寂（死亡）後、京都の養源院の塔主（主管者）となり、臨済宗妙心寺派の大本山・妙心寺5世をも勤める。

●日峰宗舜に帰依した細川勝元（応仁の乱の東軍総帥）は、宝徳2（1450）年、大雲山龍安寺を創建し、開山に義天禪師を招請したが、禪師は龍安寺の創建者（開基）・細川勝元が帰依し、既に入滅していた日峰宗舜〔大徳寺36世住職〕を開山始祖とした。この行為は、敬愛の精神から師の恩義に感謝し、それに少しでも報いるためではないかと推測される。また、義天玄詔の肖像で、最高位の紫衣でなく黄衣を着用しているのも、師である日峰宗舜に憚っているためと言われており、義天禪師の奥深い人間性が感じられる。

●戦国時代の享徳2（1453）年61歳の時、後土御門天皇（1442-1500、在位：1465-1500）の勅により、臨済宗大徳寺派の総本山・大徳寺^{※2}に入寺し39世住職（義天玄承）となり、禪院では初めての高位の紫衣（紫色の法衣）が勅許（天皇の許可）されるが、わずか8日で寺を出る。ちなみに、天皇在位中の1467年に「応仁の乱」が勃発する。

●義天玄詔は、龍安寺の初代住職となってから十余年住持し、寛正3（1462）



石積み

遺構全景（石積み・沓脱石・石垣）

年3月18日、70歳で入定した。

●江戸時代になって、東山天皇から「大慈慧光禪師」の徽号（天皇から高僧に贈る号）を賜る。

義天玄詔の人柄については、弟子の話からすると「厳峻・機鋒・尖鋭であり、頭脳明晰で鋭く、何時何事でも真剣に立ち向かい、油断のない姿勢と厳格な人柄」であったことが窺われ、「学問に対しては非常に厳しい姿勢で臨んだが、頭の低い人物」であったといえる。

今回「天忠寺跡」が確定したということで、横倉山自然の森博物館の方で今春とりあえず現地の表面踏査を行ったところ、大量の瓦片が採集できたが、専門家の鑑定ではそのほとんどが江戸時代のものであることがわかった。これには、中央の寺院であれば瓦葺ということが当然考えられるが、土佐のような地方の僻地だと、瓦葺ではなく茅葺か藁葺であった可能性もあるという理由が考えられる。瓦以外で寺院の遺構ではないかと考えられるものに、寺の敷地南端に南の義山和尚の屋敷があったと思われる場所^{※3}から続く小径〔幅80センチ～1メートル〕の突き当りにある、方形状に加工した砂岩製の石積み〔幅：17×50センチ、15×47センチ〕[写真]がある。石材は横に整然と二つ並べて組まれており、小字「東門」内にあった寺の山門（正面玄関）の礎石の一部である可能性が高い。また、このすぐ手前横の草むらに80×105センチ、厚さ40センチの砂岩製の平たい石が砂岩のブロックで築かれた石垣（高さ1メートル以上）の上に放置されており、これに関しては、その大きさや状況等から寺の沓脱石か何かであったことも考えられる。石垣はこれより東へ約13メートル続いている。

極めて知名度・人気の高い「龍安寺」の初代住職・義天玄詔が修行した寺ということで、今後発掘調査等で何らかの貴重な遺物が出土すれば全国的に脚光を浴び、天忠寺の歴史の解明のみならず、その知名度が上がり越知町の新たな観光資源の一つにもなり得ると考えられる。現段階では町以外での天忠寺・義天玄詔と龍安寺の関わり等についての歴史的認識はほとんどなく、地元越知町はもとより、高知県の誇れる史蹟となるよう今後の調査研究に大いに期待したいものである。



沓脱石(?)

- ※1 師が、弟子が悟りを開いたり、宗教的能力を得たことを証明認可すること
- ※2 茶道との関りが深く、千家の菩提寺で千利休の墓がある塔頭・聚光院などがある
- ※3 字：「玄蕃（屋敷）」で、「龍安寺創建開山義天禪師五百五十年遠諱」の石碑（平成20年に龍安寺設置）の建っている場所（公園）

〔註〕義天玄詔については、『ふるさと越知の先人たち』（越知史談会、2010）、「広報 おち」（越知町、2008）に「義山和尚と義天玄詔」という表題で紹介されている。

11月12日（9時～）には、龍安寺の僧侶数名らが来て、柴尾の記念碑前で、「義天祭り」が盛大に行なわれる。

（やすい としお／横倉山自然の森博物館 学芸員）

博物館行事

写真展：『やや身近な野鳥』

(撮影：高知大学大学院 邊見由美・美濃厚志)

2017年4月15日(土)～5月14日(日)



「『酉年』にちなみ、身近な野鳥の美しさや、かっこよさを知ってほしい!」という願いで、高知を中心

に身近で見られる野鳥、出会えて嬉しかった野鳥57種を約60点の写真でその自然の姿を紹介。

自然界に生きるシジュウカラ、ヤマガラ、ルリビタキ、サンコウチョウ、カワセミ、ヤマセミ、アカショウビンなどの小鳥の愛らしい姿や、サシバ、ハヤブサ、オオタカなどの猛禽類のたくましい姿が感動的であった。

主な感想として、「身近にこんなにかわいくていろんな種類の鳥がいたなんてびっくり。かわいかったです」「見事な撮影に感心しました」「どれも鳥の表情がかわいかったです」「解説がとてもおもしろかったです。私も図鑑を持って出かけてみます」などがあつた。

企画展：『第39回 高知県写真家協会展「土佐」』(選抜移動展)

2017年5月27日(土)～6月11日(日)

恒例となった、高知県写真家協会の会員の撮った、変わりゆく土佐の自然・祭事・風物詩・文化などを対象とした写真91点を展示。今年も、土佐の自然・風土に根付いた伝統行事等とそこで繰り上げられるドラマの一瞬をシャッターチャンスで捉えた、写真ならではの芸術的な作品が揃った。

昭和50年(1975)に始まった本展は、来年「第40回記念展」を迎える。

『夏休み博物館教室』[勾玉作り]

2017年8月11日(金・祝)[指導：公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター、参加者：21名]

縄文時代晩期に登場し、古墳時代に最も流行した古代人の装身具であり、天皇が即位する際に必要な“三種の神器”の一つでもある「勾玉」。



その材質には、ヒスイ・メノウ・ガラス・琥珀・滑石・金のほか、土・ツキノワグマの牙などもあり実にさまざまである。高知県内の

古墳時代の勾玉は土製が多いが、碧玉(黒メノウ・“出雲石”)製の珍しい勾玉も出土している。

今回は材料として、最も柔らかい鉱物「滑石」(硬度1)を用いて作った。まず、ノコギリで滑石を勾玉の大まかな輪郭に切り、三種類(粗・中・細)の紙ヤスリで順番に削っていき、最後に水磨きした後新聞紙で艶を出す。

今回はやらなかったが、水性ペンもしくは蛍光ペンで彩色してみるのもおもしろい。

多くの子どもが「楽しかった」と感じ、「初めは難しかったが、やってみると意外と簡単だった」といったような感想が多かった。

『夏休み博物館教室』[オリジナル万華鏡作り]

2017年8月13日(日)[講師：日本リサイクル万華鏡協会 橋本優氏、参加者：午前の部 18名、午後の部 19名]

恒例となり、あらかじめ作業効率を高める工夫もしていたため、1時間足らずで完成したが、いつ見ても夢のある綺麗な万華鏡である。

残りの時間で、竹ひごをバネ仕掛けでキツツキが嘴で叩きながら降りていく“キツツキ君”を作った。

万華鏡は簡単に「時間とともに移るビーズに感動しました」「中身が変わって何度見てもあきなかった」、一方“キツツキ君”は「(銅線で)バネを作るのが難しかった」ようであるが、楽しいものができたと思う。



夏休み企画展：『四国のツキノワグマ』

2017年7月22日(土)～9月3日(日)[協力：認定NPO法人 四国自然史科学研究センター]

四国・本州における最大の哺乳類で、食物連鎖の頂点に立つ「ツキノワグマ」(月輪熊)。

現在、四国では四国山地・剣山系にわずかながら生息、その生息確認数は十数頭で、正に絶滅の危機に瀕している。

昨年は剣山地周辺以外でもクマの目撃情報がマスコミなどにより数回紹介され、クマに対する関心が四国でも高まってきている。今回の企画展では、昔の資料・標本、現在の調査結果に基づいて、その分布状況・個体数の変化など現在に至った要因を探り、今後の絶滅を回避するための取り組みについて考える。ツキノワグマの生態を理解し、今置かれている現状について普及啓発するとともに、広く一般に興味・関心、保護意識を喚起することを目的とする。数

少ない貴重な四国のツキノワグマが生息できる環境を守り、何とか保護して絶滅から守り次世代に受け継ぐためのきっかけになればという願いで本企画展を開催した。

《主な展示》

- ・四国産ツキノワグマの剥製（7点）
- ・同骨格（7点、内全身骨格1点を含む頭骨）
- ・分布の変化、減少要因などに関するパネル
- ・ツキノワグマが棲む森に暮らす鳥獣（カモシカ・ニホンリスなど）…剥製及びパネル
- ・自動撮影カメラ調査による写真・動画 など

《関連イベント》

◎講演会：『しらべてわかった四国のクマのこと』

7月23日（日）〔講師：四国自然史科学研究センター 研究員 山田孝樹氏〕

◎ワークショップ：『ツキノワグマってかわいい？ こわい？～クマを楽しく学ぼう』

7月27日（木）〔講師：（公財）日本自然保護協会〕

主な感想として、「四国のクマは数が少ないと聞いていましたが、ここまでとは知りませんでした。クマは怖いですが、何とか共存していきたいです」（高知市）「これだけのクマの剥製がそろったのは初めて見ました。5歳の息子も感動してます」（高知市）「大変良い展示、勉強になりました」（高知市）「人と動物（クマ）がお互いの棲む場所



を奪いすぎないように共存できる未来にしていきたい」（愛媛県）「人間がここまでツキノワグマを減らしてしまったのだと分かりました」（高知市）「すばらしい企画展をありがとうございました」（愛媛県）「ツキノワグマを守りたい。守るために活動されている人がいる。四国の人たちに知らせる必要あり」（徳島県）などがあつた。

中でも、子グマ（2頭）が、母親とともに元気に巣立っていくシーンを長期間追跡した映像は感動的であった。

今回の企画展開催に当り、その主旨に賛同し、貴重な標本をお貸しいただいた各施設、及び後援を引き受けていただいたマスコミ関係（県外分）の方々に心より感謝申し上げます。

〈後援〉日本クマネットワーク・（公財）世界自然保護基金 ジャパン（WWF ジャパン）・（公財）日本自然保護協会・環境省中国四国地方環境事務所・四国森林管理局・高知県・徳島県・徳島新聞社・愛媛新聞社

友の会だより

「アケボノツツジ・聖神社観察会」

2017年4月16日（日）〔参加者：7名（内 事務局2名）〕



当初予定していた4月9日（日）が天候不順と肝心のアケボノツツジがまだほとんど開花していないということで、一週間延期した。幸い天候に恵まれ、アケ

ボノツツジも株によっては4～5分咲きのものもあったが、全体としてはまだ早かった。一方、昨年越知町内で初めて確認された「タムシバ」（モクレン科・白花）は満開状態だった。植物の花がちょうどの時期に行くのはかなり難しい。

横倉山植物観察会：「牧野博士ゆかりの地・横倉山を歩く」

2017年9月1日（金）〔牧野植物園友の会・横倉山自然の森博物館友の会 交流企画 参加者：植物園 16名（内スタッフ 4名）、博物館 11名（内同 3名）〕

9月に入った途端に朝夕が涼くなった快晴の1日、牧野植物園と当館双方の友の会交流の植物観察会が、牧野博士ゆかりの横倉山で行われた。

今回は、牧野博士に扮する植物園の稲垣典年氏の解説で、牧野博士の発見・命名による「コオロギラン」〔横倉山タイプ植物〕を始めとする博士ゆかりの植物を見て回った。

コオロギランは、8月下旬から芽を出し始めたもののまだ開花には至らなかったが、横倉山を代表する希少植物とあって、何ヶ所かで皆注意深く、まだ高さわずか1～2mの個体を探し当ててじっくり観察していた。

この他、ヨコグラノキの基準木（推定樹齢160年）やヨコグラツクパネ（いずれも『横倉山タイプ植物』）などの観察も行った。

昭和9（1934）年8月2日、牧野博士73歳の時に、150余名の全国の参加者の下行われた「植物採集会」の際に、杉原神社前で撮った集合写真と同じ場所で記念写真を撮って本会の思い出の一つとした。

3F展望ロビーにおける

コーヒーマシンの無料サービス

2017年10月11日（水）～13日（金）

来場者の声の中で最も多い、「眺望がいいのでカフェテラスのようなものがあるといい」という要望に少しでも応えるために会員有志が行った。



【博物館日誌（抄）・平成29年度博物館行事予定】

- 3月29日（水） 博物館協議会
- 4月15日（土）～5月14日（日）
写真展：『やや身近な野鳥』
- 5月27日（土）～6月11日（日）
第39回 高知県写真家協会展『土佐』（選抜移動展）
- 7月25日（火）～28日（金）
越知中学校職業体験
- 7月22日（土）～9月3日（月）
夏休み企画展：『四国のツキノワグマ』
- 8月11日（金・祝）
夏休み博物館教室 ～勾玉作り～
- 8月13日（日）
夏休み博物館教室〔工作〕～オリジナル万華鏡作り～
- 9月23日（土・祝）～11月26日（日）
開館20周年記念企画展
『高橋宣之写真映像展 古き神々の森～横倉山～』
- 平成30年1月 冬季企画展（未定）

【博物館友の会「フォレストクラブ」・平成29年度活動予定】

- 4月16日（日）
“土佐の投入堂” 聖神社見学とアケボノツツジ観察会
- 5月7日（日） 屋島源平の戦い史跡視察研修（中止）
- 5月23日（火） 友の会運営委員会
- 5月27日（土） 総会
- 6月3日（土） 仁淀川水質調査
- 6月17日（土） 炭焼き体験
- 6月23日（金） 横倉山のヒメボタル観察会
- 9月1日（金） 横倉山植物観察会「牧野博士ゆかりの地・横倉山を歩く」（牧野植物園友の会との共催）
- 10月11日（水）～13日（金）
3階展望ロビーにおけるコーヒーの無料サービス
- 11月11日（土）～12日（日）〔一泊二日〕
「備中松山城と屋島源平の戦い史跡」視察研修
- 2018年1月1日（月） 初日の出を横倉山で

横倉山ミニ歳時記

■マンネンタケ *Ganoderma lucidum*

猛暑だった今年の夏の終わりに近い8月27日、「安徳天皇行在所跡」の枯れた杉？の古い切り株の朽木とそのすぐ傍の地面に合計3本の「マンネンタケ」が着生しているのがこの場所で初めて確認された。

担子菌類ヒダナシタケ目マンネンタケ科に属するキノコで、長さ十数センチ程の棒状の柄の先に「腎臓形」～円形の傘の付いた、杓文字に似たような形をしている。かなり成熟していると思われ、全体が赤褐色～紫褐色を呈し、質は堅い。

“腐らない”ことから漢名：万年茸といい、また別名“靈芝”とも呼ばれ、古来中国では“縁起のよいキノコ”“めでたいキノコ”とされ、“不老長寿の薬”として重宝されてきた。日本でも床の間に床飾りとして飾られたりすることがある。また、サルノコシカケが癌に効くとして珍重がられるように、本キノコにも免疫力向上・抗癌作用がある成分が含まれるとして注目されている。



《開館20周年記念企画展》



高橋宣之写真映像展
『古き神々の森～横倉山～』（～11月26日）
当館は、平成9年10月11日にオープンし、今秋20周年を迎えた。その節目に当り、越知町のシンボルである「横倉山」をテーマにした上記企画展を現在開催している。
横倉山は、約4億5000万年前の日本最古の化石を産する山で、かつては赤道付近のオーストラリアの傍にあったと言われていて、日本列島のみならず地球の歴史を考える上で重要な山である。また、牧野富太郎博士縁りの希少植物を含む植物の宝庫で、推定樹齢数百年のアカガシの古木・巨木から成る日本唯一といえる“アカガシ原生林”が残り、森中が神秘とロマンに包まれている。さらに、その神秘的な山の姿から、800年以上も昔から土佐国唯一の修験道の霊場（道場）として栄え、平家伝説が残り「安徳天皇陵墓参考地」（宮内庁所轄）も山中にある。このような古い歴史を有する横倉山は、正に“神々の宿る山”“不思議の森”というのにふさわしい原始の森である。

本企画展では、この横倉山にスポットを当て、“仁淀ブルー”で有名になった清流・仁淀川をも含め、写真と映像によってその魅力を紹介する。

高知県越知町立

横倉山
自然の森博物館



〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12
TEL0889(26)1060 FAX0889(26)0620
http://www.town.ochi.kochi.jp/

- 開館時間：午前9時より午後5時まで
最終入館は午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
12月29日から翌年の1月3日まで
- 入館料：大人……………500円（※各20名以上
高校・大学生……………400円 上の団体は
小・中学生……………200円 100円引き。）
- 越知への交通
高知——JR特急 約30分——佐川——バス 約15分——越知
JR普通 約50分

